

歴史研究会創立 53 周年記念
第 27 回全国大会（平成 23 年 10 月）

吉備の国岡山大会報告

レポート 山本 敦（全国大会事務局長）

はじめに

私が歴史研究会と関わり始めてから陰ながら私を支えてくれている M 君（岡山歴史研究会会員、大学同期生）が大会終了の次の日に以下のエッセーを大学同期生達に送ってくれ、労を犒ってくれました。最初にそれを紹介します。

歴史研究会「吉備の国岡山大会」 11/10/24

同期生の Y 君が事務局長を務める岡山歴史研究会は、会の設立一周年目で全国大会を引き受け、先日大盛会裏に終了しました。

岡山全日空ホテルでの式典、記念講演に続いて二日間にわたって古代吉備国の史跡と高松城址、津田永忠の足跡、備前焼の見学会等を盛り込んだ大変な企画でした。

約 300 名の参加者の中での Y 君の晴れ舞台です。見学会は「晴れの国岡山」とはいえ、



今にも降り
そうな空模
様でしたが、
幸いにも雨
にも会わず
に無事に開



催できました。来年は福島県白河市で開催されるということで大震災の東北地方からも沢山の参加者がありました。岡山県の歴

史を堪能しているようで、地元参加者も鼻高々でした。基調講演は新納岡大教授の「解明が進む巨大造山古墳」、柴田就実大学名誉教授による「岡山の礎・宇喜多家から池田家へ」と古代から近世まで興味深い講演でした。

これら全部を仕切った Y 君は終了後ダウン寸前



平成23年10月22日 全国歴史研究会 第27回全国大会 吉備の国・岡山大会 吉備津神社

だったとメールを送ってくれました。本当にご苦勞様でした・・・写真は見学会吉備津神社での記念写真です

吉備の国岡山大会（10/21～23）が本部のご指導のもと実行委員および多くの協力団体やスタッフの献身的な努力のお陰で成功裏に終了することができました。心から感謝と御礼を申し上げます。

第 1 部【全国大会記】第 2 部【実行委員会奮闘記】として報告させていただきます。

第 1 部【全国大会記】

〔第 1 日目〕 10 月 21 日（金）於：岡山全日空ホテル

曲水の間で約 300 名の参加のもと実行委員の稲見圭紅・市川仁美の兩人による司会で記念式典、記念講演を開催。開会直前に岡山の実行委員顧問の方がステージから椅子ごと真後ろに転倒するとういアクシデント。ご本人は病院に運ばれるも大事に至らず、一安心となりました。

《第一部 式典》山崎副委員長が開式を宣言。実行委員長の天野勝昭岡山歴史研究会会長が「吉備の国岡山はまさに歴史の宝庫。講演会や見学会を通じて心ゆくまで堪能してほしい」と歓迎のあいさつ。山本事務局長が来賓 7 名を紹介。来賓代表として岡山県知事代理、環境文化部長高橋邦彰様が「この大会が吉備の文化を全国に発信する場となることを期待している」と挨拶。又、特別来賓として福島県白河市長鈴木和夫様が「東日本大震災で奥州白河市のシンボルである小峰城址石垣が崩壊した。復興に 5,6 年かかるが、その途上の来年 10 月 19 日～21 日福島県白河市で歴史研究会全国大会を開催するので是非お越しく下さい」とあいさつ。高橋倭子様が本部会員として参加者約 120 名（岡山実行委員会の募集者を除く）を紹介。全国歴史研究会主幹の吉成 勇様が「岡山の実行委員会の教訓を今後の大会に活かす」とお礼のあいさつ。本松副委員長の閉式宣言で終了した。

《第 2 部 記念講演》新納 泉岡山大学大学院教授（考古学）は『造山古墳一解明が進む全国第 4 位の巨大古墳』と題して、多くの画像を大型スクリーンに写し、昨年、周壕と周堤の痕跡が確認された造山古墳（岡山市）の初公開の研究成果を披露。引き続き、柴田 一就実大学名誉教授（日本近代史）は『岡山の礎・宇喜多家から池田家へー岡山城・城下町と新田開発』と題して、宇喜多氏の城下町経営や岡山藩郡代津田永忠の業績、特に大規模干拓による沖新田開発と人柱伝説の沖田姫について独特の語り口で興味深く語られた。吉備の国岡山大会にふさわしい内容の講演会となった。

《第 3 部 祝宴》

宴会場に約 150 名が移動。アトラクション備中神楽『大蛇（おろち）退治』は激しい動きの演技で参加者を魅了した。本部運営委員大谷浩士様、高橋浩子様のご兩人による司会で祝宴が始まる。本部運営委員荒濱 茂様が「こんな見事な大会は見たことはありません」と現地賞賛の開会あいさつ。（財）特別史跡旧閑谷（しずたに）学校顕彰保存会会長・岡

山県備前陶芸美術館館長森崎岩之助様は特別史跡旧閑谷学校を「我が国最初の庶民教育を行うための学校として世界遺産登録をめざしている」と少し長い来賓挨拶。本部運営委員土田和美様、坂本花子様、竹本弘子様 3 名による乾杯の宣言。会食、歓談になった。

最北の宮城県から最南の鹿児島県まで参加者全員が順次ステージに上がりスピーチを行った。途中、前述の稲見圭紅・市川仁美の 2 人が福島県白河市の小峰城址石垣修復募金箱を持って各テーブルを回り多くの方から募金を集め、ステージで鈴木和夫白河市長に募金を箱ごと手渡した。市長から「小峰城址石垣の修復にありがたく使わせて頂きます。来年の全国大会は白河市役所あげて皆様をあたたかくお迎えます」との御礼の挨拶。岡山の天野勝昭実行委員長から「来年の白河大会には岡山から大挙参加したい」と白河市の参加者にエールを送った。本部運営委員石田謙司様、中倉茂様、杉原幸晴様 3 名の音頭で声を合わせて一本締めの中締めとした。最後に本部運営委員で宮城から参加の渡邊洋一様が「東北の人間として白河市で全国大会が開催できることは大変うれしい。おもてなしの心で大会を成功させたい」と閉会のあいさつ。

[第 2 日目] 10 月 22 日（土）見学会① 古代吉備国の史跡巡りと備中高松城址探訪ほか

第 1 号車 講師 野崎 豊先生 遠山義雄先生

第 2 号車 講師 熊代哲士先生 鷹取敏明先生

第 3 号車 講師 楫野史朗先生 中山良枝先生

バス参加者 118 名（他に随行・現地スタッフ 29 名）はホテル出発後バス内で岡山市デジタルミュージアム制作ビデオ“難波金之助の「桃太郎の史実」をたどる”を鑑賞した。

吉備津神社では 389m の回廊（岡山県指定重要文化財）途中から拝殿へ回り、国宝の本殿・拝殿の比翼入母屋をバックにバス毎に記念写真を撮る。

全国第 4 位規模の造山古墳では造山古墳蘇生会、定廣会長をはじめ 13 名が古墳を案内。昨日の記念講演のテーマであったので皆さんも満足されたようでした。

備中高松城址では、高松城址保興会のボランティア 6 名の案内で備中高松城址境界を散策した。バス内で配布した高松城水攻めの資料は歴史研究会の古くからの会員である林信男様（92 歳：岡山歴史研究会顧問）が準備したもの。林 信男様は電動車椅子に乗り清水宗治公首塚前で皆さんを出迎え、上機嫌の様子でした。

昼食会場「ときわや」で清水宗治公兄月清入道の 16 代目、総社商工会議所会頭で総社市教育委員長の清水 男先生から『備中高松城水攻めについて』の講話を聞いた。伝来の品々も展示され、皆さんの興味を引いた。

楯築遺跡では地元の倉敷市日畑西山町内会 5 名と天平衣装を着た実行委員、講師の皆さんの歓迎で地元の氏神様（楯築神社）を特別開放し貴重なご神体＝弧帯文石（通称亀石）や古墳発掘で出土した朱を拝ませて頂く。又、倉敷市文化財保護課長の福本明様が天平衣装を着て楯築遺跡を判りやすく説明。

次いで総社市にある作山古墳、備中国分寺を巡る。最後の見学地、後楽園に行くバス内でビデオ“古代山城 鬼ノ城”を鑑賞した。

岡山後楽園では岡山市観光ボランティア活動連絡会、倉田範生会長はじめ約 10 名の皆さんが園内を案内した。雨が降り出したのは見学が終わってからであった。

創作料理「吉備亭」にて有志夕食会を開催した。参加者は 86 名であった。

〔第 3 日目〕 10 月 23 日（日）見学会② 岡山藩郡代津田永忠の足跡と備前焼探訪ほか

第 1 号車 講師 佐藤光範先生

第 2 号車 講師 山崎泰二先生 丸谷憲二先生 特別講師 柴田 一先生

バス参加者 74 名（他に随行・現地スタッフ 22 名）

旧閑谷学校では備前市観光ボランティアガイド協会の片山伸栄会長はじめ 4 名で校内を案内した。希望者 45 名は国宝の講堂で円座・椅子に座り講師國友道一先生の指導による論語の音読体験。受講後参加者は漆塗りで黒光りのする床を雑巾できれいに清掃し退室した。

備前焼伝統産業会館で備前陶芸美術館学芸員上西高登先生の『備前焼について』と題する判りやすい講話を聞いた。新日本料理『四季彩』の素晴らしい弁当を食べた後、史跡伊部南大窯跡巡り、備前陶芸美術館見学、備前焼土ひねり体験、買い物等でそれぞれに備前焼を楽しんだ。備前焼土ひねり体験参加者は 12 名。伊部の街巡りは観光ボランティア 5 名で、史跡伊部南大窯跡巡りはスタッフで案内。

備前長船刀剣博物館では、刀剣博物館ボランティア会の岡崎寿夫会長をはじめ 4 名の方と片山 工館長が館内を案内した。

倉安川吉井水門を見学し、続いて訪ねた新しく建て替えられた沖田神社では、秦 俊治宮司が歓迎。さらに沖田姫が人柱になり入水した場所、沖田神社の元宮「古宮神社」（2 号車のみ）と百間川を車窓から眺めて岡山城へ。

岡山城では岡山市観光ボランティア活動連絡会、倉田範生会長はじめ約 6 名の皆さんが城内を案内した。

岡山城天守閣前の芝生広場で解散式。本部運営委員と岡山の実行委員全員が前に整列し、本部の高橋倭子様司会。吉成代表が「岡山実行委員の皆さんのお陰で素晴らしい大会になりました」とお礼のあいさつ。天野実行委員長が「3 日間の大会が皆様のご協力で無事終了できました。来年は奥州白河大会でお会いしましょう」とあいさつ。岡山の実行員全員と本部運営委員を紹介し、最後に、山崎副委員長が岡山市観光ボランティアの皆さんに「2 日間にわたり大変お世話になりました」とお礼のあいさつ。岡山実行委員、観光ボランティアの皆さんが揃ってバス乗り場で参加者を見送り 3 日間の大会を終了した。

第 2 部では今後開催される全国大会の一助になればと岡山実行委員会の奮闘を報告する。

第 2 部【実行委員会奮闘記】

－大会開催地に－

岡山市出身の竹本弘子様（徳島歴史研究会副会長、本部運営委員）が本部で岡山での全国大会開催を提案したのが発端。昨年 3 月 17 日、本部から吉成代表と高橋様が来岡され、

竹本様、弟の天野勝昭氏、私の 5 名が岡山後楽園荒手茶寮で会食をした。初顔合わせの席で吉成代表から「来秋全国大会を岡山で開催したい」「岡山で全国大会開催できるのは又とないチャンス」「山本さんにやって頂きたい」と 3 度も名指しで依頼。引き受けるにあたり「大会の成功とは？」と聞くと、吉成代表から「参加者に喜んで頂くこと」でした。

－岡山歴史研究会設立－

その後 6 月 26 日『歴史を楽しむ会 in 岡山』（32 名）を開催。全国大会の開催を全員が賛成。「全国大会開催で終わらすのは勿体ない」「岡山歴史研究会設立のチャンス」との意見がでたことから設立準備会を 7 月 4 日に有志 7 名で立ち上げ、県内の歴史愛好家団体の中心メンバー 26 名が設立発起人に。設立総会に向けて 8 月 29 日から会員募集を開始、会員募集資料約 800 部を送付した。会員数は 9 月 13 日 50 名、9 月 22 日 100 名、10 月 6 日 150 名と増え続けた。その間設立準備会を計 10 回開催、そして 10 月 14 日岡山後楽園鶴鳴館の大広間で設立総会を開催。121 名の参加のもと岡山歴史研究会（現在会員 233 名）を設立した。

－運営委員会・顧問会議－

岡山歴史研究会設立から 1 週間後の紀州田辺大会に勉強の為、数名が参加した。桃太郎の鬼退治の扮装で吉備の国岡山大会をアピールした。

昨年 12 月 12 日、初顔合わせの第 1 回運営委員会（14 名）で全国大会のプログラムを検討し、引き続きの懇親会で熱心に語りあい“全国大会は岡山歴史研究会が中核になって実現する”ことを確認した。全国大会まで岡山歴研では運営委員会を 4 回、顧問会議を 2 回開催。

－実行委員会－

2 月 26 日に第 1 回の全国大会実行委員会（14 名：本部 4 名）開催。4 月 29 日さん太ホールでの岡山歴研定期総会（参加 196 名）で“全国大会を成功させる”ことを決意表明。実行委員会を 5 回開催。多い時は 40 名の参加、延 143 名（本部 21 名）。毎回熱気あふれる実行委員会でした。

－大会プログラム－

9 月 25 日の本部のメンバーが参加された第 3 回実行委員会（38 名：本部 4 名）で大会プログラムが最終的に確定したが、昨年 8 月 8 日の第 3 回岡山歴研設立準備会（本部参加）で第 4 日目の見学会（オプション：高梁・吹屋方面）中止を決めて以降大筋の変更は無かった。

－見学会の下見会－

下見会を計 7 回実施（延 70 名：本部 16 名）。トイレ場所・移動時間・移動ルート確認・試食等を行った。この下見会を行ったことが本番での運営に大変有効だった。

－見学会ガイド資料－

大会見学会ガイドの文章作成で吉備の国・岡山の概要（2 頁）は天野委員長（岡山歴史研究会会長）が、その他（13 頁）は山崎副委員長（岡山歴史研究会副会長）が、見学会略図

は事務局長の私が担当した。6 月上旬に山崎氏は 3 日間大奮闘して完成させた。さらに完成度の高い洗練された文章に仕上げるため、多くの方の意見を取り入れた。完成に至ったのは 3 ヶ月後の 8 月下旬。柴田 一先生にも見て頂き、相当箇所の修正と見学会略図もアドバイスを頂いた。

－大会資料集の版下作成－

大会資料集表紙のウグイス色は岡山特産のマスカット色と褒めて頂いた。大会資料集の裏表紙の内容は今まで歴史系だったが、今回は岡山の観光振興にと【美味しいもの・絶品・郷土料理・ご当地グルメ・お土産】を採用。この宣伝が功を奏してか？大会後の 11 月 12 日～13 日間、姫路で開催された B 級グルメ全国大会「B-1 グランプリ」で岡山から出店した県北のひるぜん焼きそばが 1 位。津山ホルモンうどんが 2 位。県南の日生カキオコは初出場ながら 9 位。岡山県内 3 団体全てが入賞した。

大会資料集の頁数は過去最大の 96 頁（表紙含む）。40 頁分は岡山で版下作成。編集校正の技術を持たれた実行委員の能勢初枝様は自費出版『ある遺書－北撰能勢の安徳天皇伝承』の再版準備と大会資料集の版下作成が重なり昼夜変わらず奮闘した。お陰で原稿の修正作業・広告募集がスムーズに運び本部も岡山の事務局も大変助かり素晴らしい資料集が完成した。能勢様は 2 年前大阪の高槻から岡山に引っ越され岡山歴史研究会に入会。会報「歴研おかやま」の編集で活躍中。

－広告・寄付金集め－

広告・寄付集めを重要な財政活動と位置づけ、広告 50 件、寄付金 8 件を募集した。本部から現地募集広告数が過去最高と褒めて頂いた。集めた広告・寄付は今回の大会運営に使わせて頂いた。

－パンフレット集め－

今回、15 種類のパンフレットの選定と収集も大変。当初参加人数を 200 名で計画。ところが会場に 300 名入場できることが分かり 8 月末になり急遽 100 セット追加収集、300 セットを準備した。大会 4 日前の封筒詰め作業で追加の 100 セットを孫娘（9 歳）にまで手伝って貰った。又、完成封筒を入れる折りたたみ式コンテナも足らなくなり 5 個追加し 10 個を使って会場に運んだ。

－大会成功のための 3 つのお願い－

大会 2 ヶ月前の 8 月下旬、3 つのお願い文を岡山歴史研究会の全会員（231 名）に送った。

- ① 大会参加募集（全国からの参加者をあたたかく盛大に迎えるため）
- ② 大会資料集の名刺広告協賛（大会成功の重要な財政的活動）
- ③ 大会運営の協力（人手が足りないため）

その結果、式典に会員 109 名が参加。名刺広告 50 件、大会運営協力者は 47 名に。

－大会運営のスタッフマニュアル作成－

実行委員の総意でスタッフマニュアルを作成。マニュアル通りに大会を運営できた。

－見学会スタッフの役割作成－

見学会の講師・マネージャー用のマニュアルを作成。見学会で威力を発揮した。

―式典・記念講演会用 司会の手引き作成―

プロに司会を頼むことも検討したが、経費軽減のため実行委員が司会を担当することとした。山崎副委員長が司会マニュアルの原案を作成。司会 2 人と検討を重ね素晴らしい進行になった。

―見学会参加者の皆さんへアンケート作成―

今回アンケート作成が必要になった理由は 4 点。

- ① 二日目の有志夕食会の人数把握
 - ② 見学会の施設入場年齢 65 歳以上割引制度利用のために年齢把握
 - ③ 見学会での論語音読体験、備前焼土ひねり体験の参加希望者の把握
 - ④ おかやま観光コンベンション協会の補助金申請のため参加者の宿泊ホテル把握
- ① については今後、参加募集段階で希望者募る必要がある。少なくとも前日にはお店に参加人数の連絡が必要。現地は非常に苦勞した。
- 他は、岡山大会の特殊な事情だが② 参加者の年齢と④ 宿泊ホテルの把握は申込時の必須項目。アンケート調査をしなくてすむように改善が必要。

―大会タイムスケジュール作成―

分刻みのスケジュール表を作成した。式典開会寸前に想定外のアクシデントがあったが、3 日間スケジュールに大きな狂いは無かった。

―楯築遺跡と天平衣装―

実行委員会でも天平衣装は“時代が違う”とか“着るのは恥ずかしい”と紛糾したが、サプライズと遊び心を重視して山崎副実行委員長が実施を決断。奈良の平城京天平祭実行委員会から天平衣装をレンタルし、美女 3 名と男性 2 名が衣装を着て愛嬌を振りまき大好評となった。

―論語の音読体験―

実行委員会でも賛否両論だったが、天野委員長の決断で実施することにした。当初希望者 23 名と低調だったが、見学会バスで講師が希望者を募り 45 名となった。大会終了後、山形県から参加の菅野（かんの）佑一様から“閑谷学校講堂での論語が一番良かった”とお礼の電話。企画した大会実行委員の片山伸栄様（備前市観光ボランティアガイド協会会長）と講師の國友道一先生に伝え大変喜ばれた。

―備前焼土ひねり体験―

備前焼作家で実行委員の延原勝志先生が企画した。参加者は 12 名で親子体験した方もいた。参加者の作品を乾燥させ窯焚きして年内に焼き上げ自宅に送られる予定。作品の出来映えが楽しみ。

―岡山の料理―

料理の善し悪しは大会成功の重要な要素。料理は岡山特産品など使い“岡山ならではの美味しい物を”“費用はリーズナブルで”と業者にきついお願いをした。業者からすれば“口

は出すなら金も出せ” でしょうが。業者の厚意で参加者には満足頂けた。大会 3 日目の昼食、新日本料理『四季彩』では当初、どこにもあるメニュー弁当だったが、納得せず岡山ならではの弁当を要望した。開けてビックリ玉手箱とでも言うのでしょうか、品書きまで付いた素敵な弁当で皆さんに大変喜んで頂いた。ご協力頂いた業者への敬意を兼ね、献立の『品書き』を紹介する。

大会 1 日目 全日空ホテルの祝宴

- ・ 鴨の燻製と栗のガード仕立て 御津の有機野菜飾り・あみ大根
- ・ 甲烏賊とままかりのオリーブオイル焼き大蒜風味 倉敷のシーチップス飾り
- ・ 鯖の黄にら蒸し みぞれ餡・B級グルメ児島の蛸塩焼きそば
- ・ 岡山ピーチポークのねぎ巻きロースト 野菜のクリームソース ポテトのローズマリー風味焼き・岡山ばら寿司・岡山フルーツミニパフェ・コーヒー

大会 2 日目見学会 吉備路の彩膳『ときわや』の昼食

- ・ 寿司・いなりうどん・特製ゴマ豆腐・小鉢（佃煮）・香の物（漬け物）・マスカット

大会 2 日目 創作料理『吉備亭』の有志夕食会

- ・ 蛸と錦糸巻きの酢物・鯖の西京焼き・鶏の唐揚げ 甘辛ソース
- ・ 鯖のたたき（鯖は岡山料理に欠かせません）・サーモン刺身・うなぎの出し巻き玉子
- ・ ごぼうの唐揚げ・巻き寿司（1人2切）・厚揚げ・海老・茄子の煮びたし
- ・ 小鉢（ひらと大根のなます）・ご飯もの（おむすび1個）・フルーツ（柿、みかん）

大会 3 日目見学会 新日本料理『四季彩』の昼食

- ・ 瀬戸内海産穴子ごはんのおにぎり
- ・ 岡山県産黒毛和牛と黄にらの温蕎麦（黄にらは岡山県が全国 7 割生産）
- ・ 鯖の幽庵焼（鯖の切り身を柚の調味料に漬けて焼いた物）
- ・ 出し巻き玉子・飯蛸、冬瓜、小芋
- ・ ままかりの酢の物（岡山の土産品）・備前産 無花果（イチジク）ごまクリーム掛

さいごに

柴田 一先生（記念講演講師）からは「全国からの皆さんを暖かく迎える岡山県人の人情をお伝えできて非常に良かったねー」と大変喜ばれた。吉成代表との約束「参加者に喜んで頂く」は何かと不行届きの点もいくつかあったとは思われますが、何とか果たせたと思う。吉成代表の「岡山で全国大会を開催できるのはチャンス」の言葉通り岡山歴史研究会（会員 233 名）が設立でき、チャンスを活かした。来年の奥州白河大会で皆様とお会い出来ることを楽しみにしております。